

2021年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

ミッション・ステートメント（使命宣言）：「私たちは、生徒の自尊感情を高める実践を追求します。」

1 本校が目指すもの

(1) 目指す学校像

学校像1	さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちを受け入れ、 仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student is left behind.)
学校像2	生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、 入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校 (Overachievement)
学校像3	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love “Tbkufu.”)

(2) 目指す生徒像

生徒像1	自己成長感 （「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、 自己効力感 （「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、 自己有用感 （「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った 自尊感情 の高い生徒 (Self-esteem)
生徒像2	自己指導能力 （その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を持った生徒 (Self-guidance)
生徒像3	自立と社会参加に必要な「基礎的・基本的な学力」と「実践的・専門的な技能」、及び ソーシャルスキル （他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）と ライフスキル （社会生活・職業生活等に必要な基礎的な能力）を身に付けた生徒 (Social-skills and Life-skills)

(3) 目指す職員像

職員像1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く 協働と利他の精神 (Collaboration & Altruism) を体現した職員
職員像2	目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける 専門職 (Profession) としての姿勢を体現した職員
職員像3	「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢を調和的に体現した職員 (Synthetic Competence)

(4) 目指すコース像

総合コース	社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす 「最強の常識人」 を育成するコース
ドッグケアコース	犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する 「ドッグマスター」 を育成するコース
パソコンコース	情報社会で生きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて 「とがったITジェネラリスト」 を育成するコース
日本語コース	教育課程の履修と高校卒業に必要な「学ぶための日本語」と卒業後の自立と社会参加に必要な「生きるための日本語」を習得し、その日本語能力を活かして希望進路の実現に導く 「自立した日本語使用者」 を育成するコース

2 本年度の重点目標

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組がたくさんあり、それらを本学園では“徳風スタイル”と表現しています。本年度も次の2点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

重点目標1：“フレキシブルスクール”への進化

- 本学園は昨年度、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、文化・教養分野に属する「総合科」を新設して2分野2学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール就学”を可能にする徳風高等学校との連携制度について、令和2年度以降の入学生を対象に、これまでの「技能連携」（学校教育法第55条に基づき、都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を自校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度）を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「高専併修」（学校教育法施行規則第98条第1号に基づき、大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を自校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度）を新たに導入しました。
- この制度改革により設置可能となった「日本語コース」を第4のコースとして立ち上げ、本学園は、「専門的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」として、また、既存の3コースについても独自性を維持しながら必要な改革を迫り、「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」として、更なる進化を続けることとします。

	徳風高等学校 (全日型コース)	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度
		分野	学科	
2019年度 まで	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	技能連携
	パソコンコース			
	総合コース			
2020年度	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	高専併修（新設）
	パソコンコース			
	総合コース	文化・教養分野（新設）	総合科（新設）	
2021年度	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	高専併修
	パソコンコース			
	総合コース	文化・教養分野	総合科	
	日本語コース（新設）			

重点目標2：“働き方”の進化

- 本学園は昨年7月、管理職と有志教員数名で構成する校長直属の特別委員会「働き方改革検討委員会」を設置し、同委員会での審議を経て、同年10月に「働き方改革アクションプラン」を策定しました。同プランでは、「全教職員がワーク・ライフ・バランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、「全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること」を目的として、本学園独自の「働き方改革」に取り組むこととします。
- 「働き方改革アクションプラン」に示した20本の改革プランは、内容別に「やめる」「減らす」「変える」「始める・つくる」の4つに仕分けしたうえで、「本年度中に実施」「来年度中に実施」「令和5年度末までに実施」「令和6年度以降に実施」の4つに区分し、各改革プランを計画的に実行に移しながら「働き方改革」を進める予定です。

3 本年度の重点取組

本年度は、令和3年3月31日付け2文科初第2124号文部科学省初等中等教育局長通知「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について」に基づき、徳風高等学校の通信教育に係る次の4点について重点的に取り組みます。また、これらの重点取組に係る徳風高等学校学則の一部変更手続きを進めることとします。

重点取組1：「通信教育実施計画」の作成と生徒への事前明示及びホームページ上の公開

次の1～3を、通信教育連携協力施設3校（高専併修制度に基づく併修校の徳風技能専門学校及び技能連携制度に基づく三重県外の技能連携校2校。以下「当該3校」という。）の「通信教育実施計画」に記載します。なお、技能連携校2校のうち1校は、令和4年度から技能連携制度を開始する予定です。

- 1 通信教育を実施する科目等の名称及び目標に関すること
- 2 通信教育を実施する科目等ごとの通信教育の方法及び内容並びに一年間の通信教育の計画に関すること
- 3 通信教育を実施する科目等ごとの学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準に関すること

重点取組2：当該3校に係る基準適合の確認とその結果の文書作成・保管

当該3校に係る次の2つについて確認し、その結果を文書で作成・保管します。

- 1 面接指導等実施施設としての編制、施設及び設備
- 2 学習等支援施設としての施設及び設備等

重点取組3：当該3校の連携協力活動に関する自己評価と評価結果の公表

当該3校の連携協力に係る状況について、PDCAサイクルを回しながら継続的に改善を図ることができるよう、実地調査や連絡会議等を通じて自己評価を行ない、その結果を公表します。

重点取組4：教育活動等の状況に関する情報公開

次の1～9について、当該3校の状況を含め「教育活動等情報公表シート」として文書にまとめ、公表します。

- 1 学科の組織並びに学科及び通信教育連携協力施設ごとの定員に関すること
- 2 通信教育を行う区域に関すること
- 3 通信教育連携協力施設ごとの名称及び位置に関すること
- 4 教員及び職員の数その他教職員組織に関すること
- 5 入学、退学、転学、休学及び卒業に関すること（入学者の数、在籍する生徒の数、退学若しくは転学又は卒業した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況を含む。）
- 6 通信教育実施計画に関すること
- 7 校地、校舎等の施設及び設備その他の生徒の教育環境に関すること
- 8 授業料、入学料その他の費用徴収に関すること
- 9 生徒の学習活動、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

4 本年度の計画と自己評価

以下において、「目指す状態」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	学習指導に関する指導力向上のための組織的な取組が弱い。また、成績不振生徒に対する指導が甘く、弱い。常勤教員が17名と少なく、授業時間中は空き時間もほとんどない状況ではあるが、生徒の学力と教員の指導力を継続的に向上させていくための実施可能な仕組みと共通実践が必要である。		
目指す状態	知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。		
実践内容	令和元年度から始めた公文式教材による「積上げ学習」の総括とその結果を踏まえた次年度以降の実施方法等の検証	自己評価	令和4年度以降の実施内容を、これまでの実績を精査した上で適正にカリキュラムを変更した。
	校内授業公開週間の年2回設定		コロナ禍の中、実施は困難であった。
	追試験等の実施体制の抜本的改善		追試験制度を廃止し、課題で対応することとした。
評価指標	生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒7割以上		65.2%
	職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員6割以上		57.9%
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策の徹底やICT端末等を利用し、校内授業公開を必ず実施し、教員の指導力向上に努める。 ・令和4年度から実施される新教育課程における学習評価の在り方について、全教科・科目で取り組む共通マニュアルを作成し、共有する。 ・令和4年度から実施される新教育課程に応じた「メディア学習」の在り方を確立する。 ・新規導入したIT機器や端末のアプリを活用し、本格的に授業等に取り入れる。 		

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談への対応の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全教員が、生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。		
実践内容	生徒の適切行動・問題行動等に関する情報の全体共有と生徒の態度・表情等の変化等に現れる生活状況に関する学年部内共有の徹底	自己評価	ケース会議等で該当生徒の指導計画を検討した。学年を越えて、生徒情報の全体共有の意識も高まってきた。
	生徒指導部主導の全教職員による共通実践とその効果等の確認の徹底		校則遵守の共通実践・徹底はまだまだ不十分である。
	生徒指導部内での生徒情報共有会月1回の実施と学年・担任との連携協力態勢の構築		定期的に実施するまで至らなかったが、必要に応じて生徒指導部と学年の情報共有は適宜実施した。
評価指標	問題行動による特別指導件数年15件以内		8件
	生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒8割以上		58.2%
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解を一層深め、各学年の集団としての教育力を高めるため、職員室内の座席配置の工夫や毎朝の職員打合せ等で情報共有の徹底を図る。 ・必要な生徒について、出身中学校、医療・福祉その他各関係機関との連携協力体制の下で生徒を適切に導き、支え続ける協力態勢を構築する。 		

ウ 進路指導

現状と課題	進路選択が依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。1年次から段階的に進路意識を高めていくことができるよう、3年間の系統的な進路指導計画を策定し、全教員による共通理解・共通実践が必要である。		
目指す状態	生徒が、必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		
実践内容	時系列で視覚に訴えかけるような取り組み内容の一覧図表の作成と全教室掲示	自己評価	文書で作成済み。図表形式のものは未完成。
	3年間の系統的な進路指導計画の策定と進路説明会・ガイダンス等の計画的実施		進路説明会実施。進路ガイダンスはコロナ禍で一部実施。
進路指導に関する内規・マニュアル等の精査・改訂と校内共有の徹底	精査・改訂には至らなかった。		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒7割以上	約9割	
	生徒満足度調査において、「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒7割以上	70.2%	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の系統的な進路指導計画を策定する。 ・内規・マニュアル等を精査・改訂し、教員間共有の徹底を図る。 ・社会で活躍する卒業生が自己の様々な体験を在校生に語る場を設ける。 		

エ 安全・健康指導

現状と課題	保健室を利用する生徒も多く、精神面も含めた健康指導や個別の相談業務など、種々の対応に負われる状態が続いている。今後は、専門スタッフの配置も視野に入れ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について、抜本的に検討する必要がある。		
目指す状態	生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒等に関する情報が全職員に共有されており、安全・健康指導面での人的・物的環境も態勢が整っている。		
実践内容	感染症対策等の健康に関する啓発活動の計画的実施	自己評価	全校生徒を対象に講話による啓発活動を数回実施。
	特別な支援を必要とする生徒に係る「個別の指導計画」の作成・活用		十分な取組はできなかった。
特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラーと連携した生徒支援の促進	2学期から生徒相談員（非常勤）、3学期から養護教諭をそれぞれ採用し、相談・支援体制の充実を図った。		
評価指標	心身の健康状態が年度当初に比して改善された生徒多数	継続的支援を要する生徒は少ない。	
行動計画	・保健部を新設し、安全・健康指導と生徒の相談・支援体制の強化を図る。		

オ 特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活が送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている。		
実践内容	生徒主体の学校行事（体育祭、文化祭等）の開催	自己評価	コロナ禍の中、生徒会中心で新形式の学校行事を開催。
	生徒会のボランティア活動への積極的参加		コロナ禍により参加できなかった。
学校掲示用ポスターの作成や呼びかけ等を通じた委員会活動の活性化	一部を除き方針も不明確で活動の低調な委員会が多い。		
評価指標	生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒7割以上	57.5%	

行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員主導による生徒会行事を実施する。 ・生徒全体の意見を反映した改善活動に取り組むなど生徒会活動の活性化を図る。
------	---

カ 部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海大会・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。	
目指す状態	多くの部が計画的・自主的に活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。	
実践内容	部活動活性化のための部活動会議の各学期1回開催	自己評価 会議は実施できなかったが、器具や道具を一部新規購入して環境整備の向上に努めた。
	生徒会による部活動活性化キャンペーンの実施	
硬式野球部の活動に必要な環境整備と具体的支援	実施できなかった。	
評価指標	生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒7割以上	45.6%
行動計画	・多くの運動部・文化部で部員が主体的に新入部員勧誘活動を行うなど、部活動活性化に向けた活動を行う。	

キ 総合コース

現状と課題	生徒の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性を明確にし、特色化・魅力化を図る必要がある。	
目指す状態	明確化された「目指すコース像」とコースとしての存在意義の共通理解の下、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組み、希望進路を実現して社会参加を果たしている。	
実践内容	次年度以降のコースの軸となる講座の企画・編成	自己評価 今年度は未実施。 既存の3講座（ネイルアート、調理、スポーツ）に加え、新たに「検定取得講座」を開設した。 学習習慣定着と自尊感情向上のため公文式学習を実施。
	「生きて働く力」として必要な知識・技能を習得させるための教育環境の整備	
義務教育段階の学び直しから大学入試まで生徒に応じた「ちょうどの学習」の教材選定	89.2%	
評価指標	生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な知識・技能、実践力を身に付けさせることができる講座の新設を検討する。 ・中学3年生とその保護者にとって魅力あるコースと認識していただくため、SNSを活用した広報活動も加えていく。 	

ク ドッグケアコース

現状と課題	生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学した生徒に対しても、その期待に応え、希望進路を実現できるよう、プロスタッフの充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。	
目指す状態	全職員が「目指すコース像」について共通理解をしたうえで共通実践し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している。	
実践内容	卒業生による関係職種別講演会の実施	自己評価 コロナ禍で実施できなかった。 同上 年度内完成を目指し作成中。 トレーニングは3年生対象に2回、トリミングは2・3年生対象に4回実施した。
	亀山市民対象「犬の躰・グルーミング教室」の実施	
生徒用学習書・担当者用指導書の作成		
トレーニング・トリミングに関する学年別集中講義を長期休業中に2回以上実施		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒7割以上	62%
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上	77%
行動計画	・卒業生による職種別講演会や、亀山市民対象のイベントが2年連続実施できていないため、来年度はコロナ禍でも感染対策を講じた上で実施する。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生の学習意欲と中学生の入学意欲を喚起・向上させるため、卒業生が3年間のコース授業等を通じて何を学び、自分がどう変わったのかを語った手記を集録し、広報パンフ「犬を学び、犬から学ぶ～成長の軌跡～」(仮称)を作成・配布する。 ・コロナ禍が継続しても適切に継続的な実習指導ができるよう指導計画の見直しを図る。
--	--

ケ パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。また、生徒の得意分野を伸長するため、自主的に学習できる環境を整える必要がある。		
目指す状態	全生徒が複数の検定試験を受験し合格している。また、個別に設定された目標の実現に向け自主的に学習している。		
実践内容	オンライン型の教材を用いたプログラミング教育の実施	自己評価	全学年対象に実施した。
	電子工作とプログラミングによる電子機器制御に関する学習の実施		全学年対象に実施した。
	タブレット端末を活用した授業の実施		1年生を対象に実施した。
評価指標	日本情報処理検定3級以上を取得した生徒8割以上	自己評価	70%
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		71%
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を見直し、教育環境の整備と改善を図る。 ・生徒が主体的に学習に取り組むための仕組みを構築する。 		

コ 日本語コース

現状と課題	令和3年度に設置したところであり、他コースとは異なる種々の課題を解決し、その成果を校内で共有しながらコースを運営していく必要がある。		
目指す状態	進学希望の生徒は日本語能力試験(JLPT)の「N2」、就職希望の生徒は「N3」にそれぞれ合格し、希望進路を実現している。また、日本語指導を必要とする外国籍生徒等に対する後期中等教育の在り方について、本コースがその教育モデルとして広く認知されている。		
実践内容	主たる教科用図書(「みんなの日本語」)を使用した読解・会話等分野別学習指導の実施	自己評価	十分に実施できた。
	JLPT「N4」レベルの漢字テスト毎日実施(1日に漢字10個ずつ習得)		コロナ禍による家庭学習期間中を除き、ほぼ実施できた。
	授業中における日本語以外の言語使用禁止の徹底		徹底できた。
評価指標	日本語コース1年生全員の進級	自己評価	中途退学者1名を除き進級した。
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		100%
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習の更なる充実を図る。 ・学校情報を生徒・保護者に確実に伝達できるよう、翻訳を要する文書等をあらかじめ選定し、計画的に準備しておく。 ・インクルーシブ教育推進の観点から、他の学年・コースとの交流を充実させる。 		

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備

現状と課題	防火対策に係る工事を進めるとともに、設備更新や改修・修繕を要する箇所を洗い出し、計画的に対策を講じていく必要がある。		
目指す状態	工事・修繕等を計画的に行い、生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。		
実践内容	5年計画の防火対策1年目(情報専門教育棟とドッグ専門教育棟間の防火対策)実施	自己評価	実施した。
	運動場の排水工事		実施した。
	新備品(机・椅子・ロッカー)と旧備品の一部入れ替え		実施した。

	特別教室の空調設備の新設	価	実施した。
評価指標	計画した工事の8割以上実施		計画した工事は全て実施。これ以外にも次のとおり実施。 ・変電設備（キュービクル）の新設 ・Wi-Fi ルータ導入によるネット環境の改善 ・コロナ対策補助金により、①オンライン授業用のパソコン・iPadの追加導入、②サーモカメラ（非接触式）の導入、③サーキュレーターの導入 等
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施。 ・安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施。 		

イ 組織運営

現状と課題	組織運営の効率化を図るため、令和2年度末において総務部の廃止、主幹教諭の新設、主任会を廃止して少数精鋭の学校経営委員会を立ち上げることを決定した。今後は、これらの改革の成果を検証しつつ、令和2年度に策定した「働き方改革アクションプラン」を計画的に実施していく必要がある。		
目指す状態	職員一人一人が職員間・分掌間で「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら意欲的に職務を遂行し、「役割間の隙間にある業務は自分の仕事」と考え行動する協働の姿勢と利他の精神を持つ職員が多い。		
実践内容	職員会議での組織力向上に関する意識啓発文書の配付年5回以上	自己	9回
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施	自己	実施事項11本のうち4本を実施。
	「働き方改革アクションプラン」の本年度実施予定の改革プラン完全実施	評価	本年度実施予定7本のうち5本を実施。
評価指標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員6割以上	評価	36.9%（2020年度61%）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末反省の結果を集約して決定した「重点改善事項」を確実に実施する。 ・「働き方改革アクションプラン」を着実に進める。 		

ウ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる取組を定着させる必要がある。		
目指す状態	生徒・保護者・職員の学校満足度の高い状態が続いている。		
実践内容	生徒会からの要望2つ以上実現	自己評価	要望なし。
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施（再掲）		実施事項11本のうち4本を実施。（再掲）
	「働き方改革アクションプラン」の本年度実施予定の改革プラン完全実施（再掲）		本年度実施予定7本のうち5本を実施。（再掲）
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上、保護者8割以上、職員8割以上	自己評価	（ ）内の左は2020年度、中は2019年度、右は2018年度の数値。 ・生徒 65.2%（61.1%、67.4%、60.2%） ・保護者 73.6%（73.8%、75.3%、67.8%） ・職員 52.7%（72.3%、52.6%、42.1%）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各満足度調査を継続実施し、別途実施する「年度末反省」の結果等も踏まえながら、各満足度を高められるよう改善方策を具体的に立て実施する。 ・「働き方改革アクションプラン」を着実に進める。（再掲） 		

5 本年度の学校関係者評価

令和4年3月1日、学校関係者評価を実施し、その結果概要は次のとおりです。

- ・右肩上がりで向上していた職員満足度が本年度は低下したことを受け、次年度の技能連携校1校増に伴う教員の負担増への実効ある具体的対応を検討する必要がある。
- ・一人一人の生徒に対し、固定的な役割分担意識に基づく対応ではなく、学級・学年・コースを横断して多くの教員が関わるのが大切である。
- ・有志生徒によるプロジェクトチームをつくり、生徒が学校発行のポスター・チラシ・パンフ等の印刷物や広報動画の制作に関わるなど、生徒に活躍の機会を提供することも考えられる。
- ・学校行事等において生徒主体の取組を進めていくためには、生徒の考え・意見を柔軟な姿勢で傾聴し、可能な限り採り入れるとともに、指導体制を整える必要がある。
- ・本年度途中で新たに職員を採用し、生徒の相談・支援体制の充実を図ったことは良いが、逆に担任による相談・指導が疎かにならないよう留意する必要がある。
- ・時間的・精神的に「ゆとり」のない中でも職員間のコミュニケーションを大切にされた組織運営に努めてほしい。

6 次年度に向けた主な行動計画

- 1 徳風高等学校の通信教育に係る次の4点の早期実現
 - (1) 「通信教育実施計画」の作成と生徒への事前明示及びホームページ上の公開
 - (2) 通信教育連携協力施設3校に係る基準適合の早期確認とその結果の文書作成・保管
 - (3) 通信教育連携協力施設3校の連携協力活動に関する自己評価と評価結果の公表
 - (4) 教育活動等の状況に関する情報公開
- 2 「働き方改革アクションプラン」(令和2年10月)の早期実現
- 3 「三重徳風学園学校改革ビジョン(基本計画)」の策定